

中学校英語教育研修会

2024(令和6)年2月27日、北部生涯学習推進センターにて「中学校英語教育研修会」を開催いたしました。

講師に西村秀之氏(玉川大学教職大学院 准教授)をお招きし、「5 ラウンドシステムによる第2言語習得の理論」のテーマで講演をしていただきました。先生は、英語のカリキュラムに基づく「5 ラウンドシステム」の授業を考案・実践し、言語習得等を踏まえた英語教育の指導法を積極的に推進し、その成果を研究しているそうです。

「5 ラウンドシステム」とは、中学校英語の授業において、1年間に教科書を5回くり返し学習する方式のことで、言語学習の定着を図り、資質・能力を育成する授業づくりであり、「5 ラウンドシステム」による授業実践と子どもたちの学びの成果についてのご報告でした。

アンケートの結果から、子どもが英語を苦手とする理由として「単語を覚えることが苦手、覚えることがメインになってしまう」等の意見があり、言語習得は、リスニング(聞くこと)から初め、内容理解、音読指導を段階的に進め、英語を聞こうとする姿勢、話そうとする姿勢を育てる授業づくりの重要性について述べていました。

「多くの先生方が、言語活動を取り入れて実践を行っています。言語活動は、学習者に必要感のある活動であることが重要です。生徒の活用場面が沢山設定されていますか？」との問いかけがありました。指導に当たって、次の説明もありました。

★参考にして欲しい授業改善の考え方のポイント

「本当に使える英語」を生徒がいかにして身につけるか！

1. ゴールを設定すること。どのような力をつけるか！

「自分の思いや考えを自分の言葉(英語)で語れる生徒を育てる！」

2. アウトプットよりインプットが重要！
3. 「繰り返すこと」で英語運用能力を育成する。

5 ラウンドの授業の構造の特徴は、スパイラル活動と帯活動！

言語材料に何度も何度も触れるスパイラル学習が必要！

ただし意味のある繰り返しを！



<5ラウンドの授業の構造>

- R1 リスニングによる内容理解
- R2 音情報と文字情報の一致
- R3 音読
- R4 穴あき音読
- R5 Retelling(自分の言葉でストーリーを伝える)

◎ 今回の研修会で得た、成果や活用策について受講者の声。

○言いたいことを英語化して音声化する。言語習得のプロセスの途中で必要になることを知る事ができた。

インテイク後→取り込む→統合化→アウトプット→フィードバック等

○「気づけば10回聞いていた」という意味のある繰り返しをどう仕掛けていくか?ここに注力することを教師は楽しみたい。

○第二言語習得におけるメカニズム、日本の英語教育が目指すべき、育成すべき生徒の姿をしっかりとイメージすることができた。5領域をまんべんなく使った5ステップの在り方

○本文の内容理解だったり、音読をただやらせるのではなく、意味づけして、生徒の意欲を高めてから本文に取り組む事で生徒が英語に対して興味を示す教授法について知る事ができた。

○今の私の授業をも一度整理してみようと思った。5ラウンドの取組と他の取組を考える。

○仕掛けを作っていつの間にか10回やっていたと言うことが素晴らしいと思った。

○とても興味のある内容だったのもっと長く、質問したりする時間が欲しかった。

○再度、5ラウンドシステムのことについて確認することができました。

○第二言語習得に基づいて子供の可能性を活かす授業改善をしていきたいと思いました。

○私もここ2年5ラウンドに挑戦していますが、「育てたい生徒像」を明確にこれからもトライしていきたいと思います。

○繰り返し活動する際に違う視点から考えさせる。又、英語学習者は授業の中で約79%言語活動をして「英語が好き」「得意である」という結果に繋がっているので授業の中でインプットも大切にしつつ、言語活動も取り入れる意識を持ちたい。

◎ 今回の研修会で学んだこと、印象に残ったこと

○5ラウンドシステムが授業改善から生まれたと知り、さらに興味が高まりました。授業をする際に、教科書をこなすことがメインになりがちだと実感した。言語習得のプロセスを知る事ができ、また、繰り返し行うことがインプットに繋がると感じた。

○目的をしっかりと捉えて教育活動を展開していくことはとても大切だとつくづく感じた。

○今回の研修を通して英語教員として意識するべきポイントや意味のある繰り返しの大切さが解った。インプットを主体として生徒に気づかせる授業づくりに全力で取り組みたいと思った。教師の取り組む姿勢は生徒にも反映されると解ったので楽しみながら取り組みたい。

○今まで自分が受けてきた授業とは違い、ただやるのではなく生徒の興味を引いてから、生徒の方がやりたいと思う工夫がとても素敵で参考になりました。

○生徒の主体性を引き出すために教師が考えなければならないことを示して頂きました。

○5ラウンドを二年間やってきて、子ども達の成長と第2言語習得の理論に伴った指導方法はとても画期的でした。やはり一番悩んだのが評価、テスト、帯活動や文法指導だったのでそのお話を又聞きたいと思います。

○「つかえるようになるまで」「自信を持って発する」将来、外国語で自分の思い、考えを伝えることを喜び、他の意見を聞き、生き方につなげる。

○「何かを教えるのではなく、子供をどう乗せるのか」この言葉が凄く印象に残っています。授業中に生徒がやりたくなるよう(主体的に)な言葉かけや仕掛けを工夫したいと思います。

○中学校三年間5ラウンドシステムに取り組んできた生徒の高校・大学への繋ぎやその後を知りたいです。

○5ラウンドの構造が面白い。

○言語習得の過程を知ることができて良かった。

◎ 今後の研修への要望

○このような研修の機会を作って頂き感謝します。

○又今度も5ラウンドの次のステージ、展開の研修をお願いします。

○又色々な理論や実践の研修機会をお願いします。

○今後も新たな視点を取り入れられるような研修の実施をお願いします。

○是非、次回も参加したいと思いました。

北部教育センターは、各市町村教育委員会等と連携し、北部の教育課題について検討し、国頭教育事務所の英語の指導主事の推薦で講師を招聘し、国頭教育事務所の共催で英語教育研修会を開催いたしました。

英語の教員にとって、言語習得の理論とその教授法を実践的に学ぶことは、自らの授業力向上に繋がることが実感できる貴重な研修会となりました。授業づくりに当たっては、ゴールを明確にイメージし、どのような力を育むかを一貫して進めることがより重要となることを気付かされる充実した研修会でした。

参加者：対面17人、オンライン参加11人

(本務教員11人、臨時的任用教員6人、学習支援員1人、学生8人、指導主事1人、出版社1人)

報告 2024年3月5日 北部教育研修センター長 高安 美智子